

令和5年度学校教育自己診断の結果・分析のお知らせ

寒冷の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本校教育にご理解・ご支援を賜りありがとうございます。

さて、昨年11月にご協力いただきました「学校教育自己診断」の結果、およびその分析についてお知らせいたします。

参考:今年度の学校経営目標、および「めざす生徒像」

<学校教育目標> 「じりつ・共生・チャレンジ」
 <めざす生徒像>
 (1) 自ら学び、考え、行動できる生徒 (自立・自律)
 (2) 仲間とともに学び、考え、行動できる生徒 (共生)
 (3) 勇気をもってチャレンジできる生徒 (チャレンジ)

1. アンケート回収率 生徒 86.0% (707 名/822 名)、保護者 58.2% (436 家庭/749 家庭)
2. 結果の概要と分析

※グラフの数値で、少数点以下の数字を切り捨てるため、合計が 100%にならない場合があります。

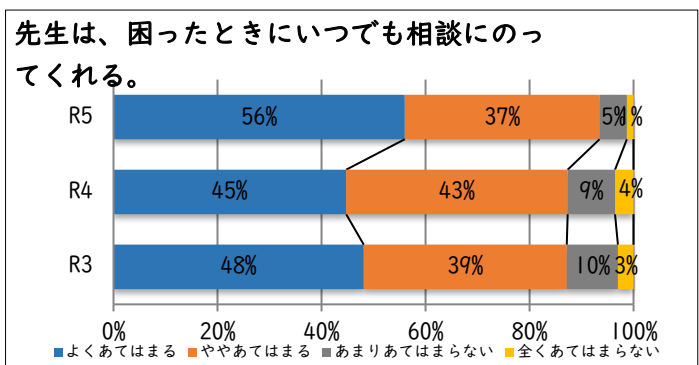
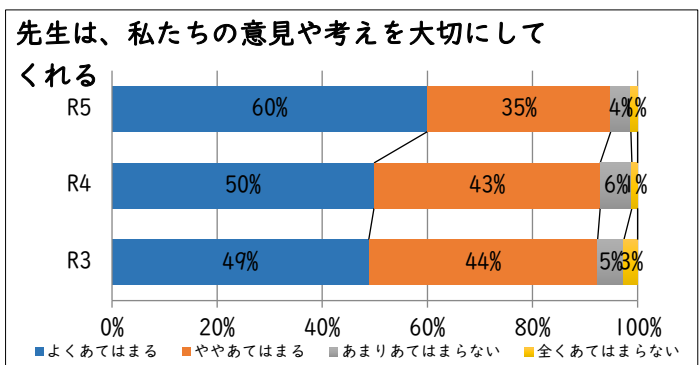
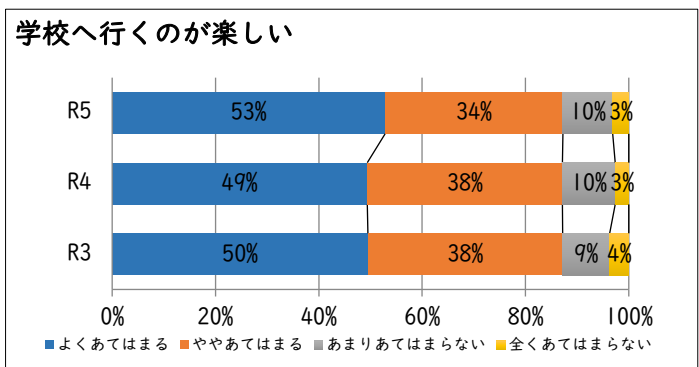
(1) 生徒

①学校生活、教職員との関係について

例年、本校で重視している「学校へ行くのが楽しい」の回答結果ですが、ほぼ例年通りでした。今年度も、約 9 割弱の生徒が肯定的な回答ですが、あえて、強い肯定「よくあてはまる」の回答が昨年度から上昇していることは成果と言えます。また、「先生は、私たちの意見や考えを大切にしてくれる」「先生は、困ったときにいつでも相談にのってくれる」の質問でも、9 割以上の生徒が肯定的な回答でした。また「よくあてはまる」の回答は、昨年度比でいずれも 10%以上増加していました。

一方で、否定的な回答（「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」）の割合や、この度のアンケートに回答していない生徒が一定数いることは看過できません。

教員の子どもたちへの対応が、年々浸透していると感じられますが、「(だから)学校が楽しい!」と子どもたちが実感し、最初の質問項目の数値も上がるように、これからも日々改善を図っていきます。



②授業・学習状況について

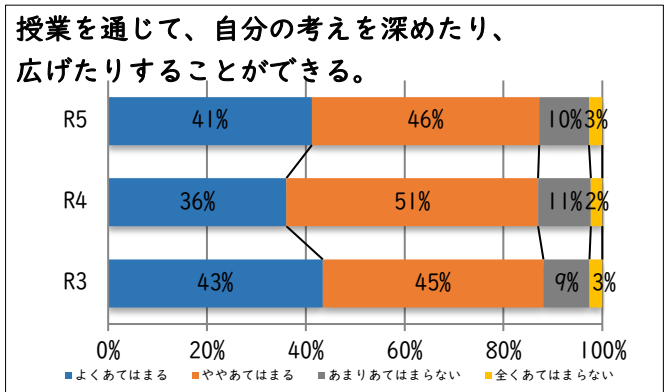
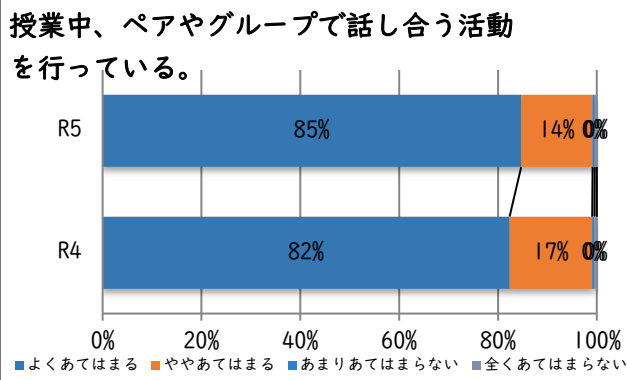
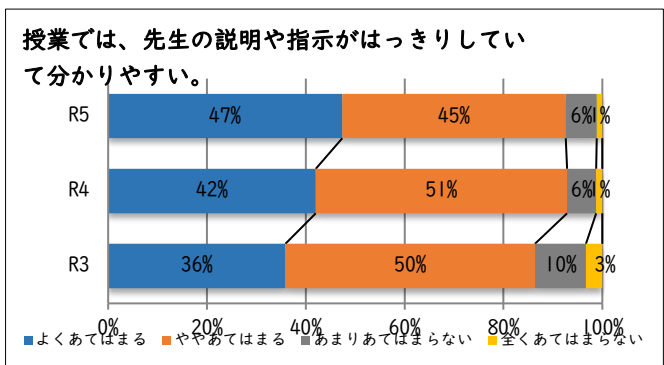
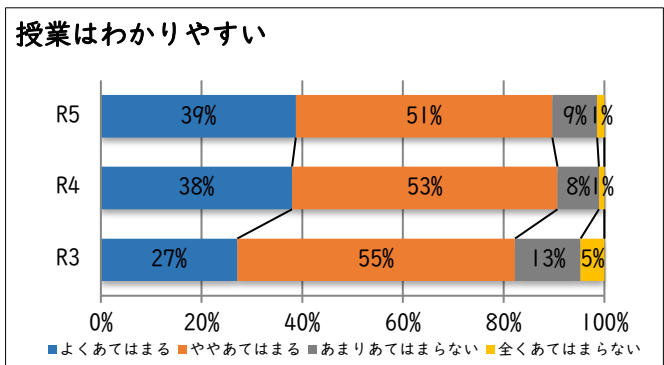
(参考) 授業改善にかかる研究テーマ：

「自ら考え、判断し、学ぶことのできる生徒の育成～対話でつながる授業を通して～」

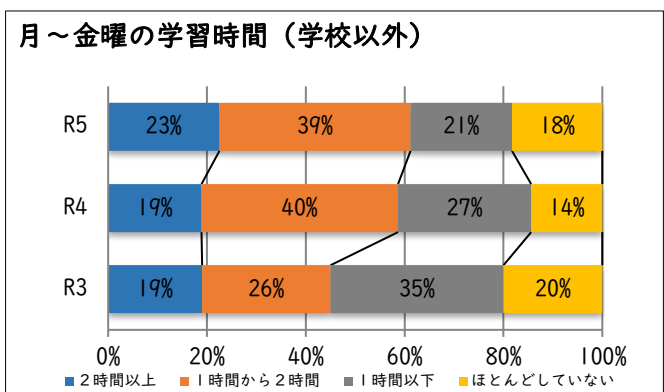
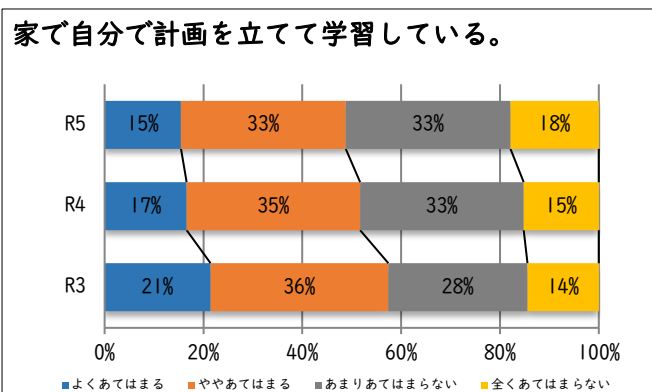
本校では、「協同学習」と「ICTの活用」を授業に取り入れ、授業改善を図っています。「協同学習」とは、グループワークの形を基本として、教科の学習を通して、学び方や他者とのつながり方を育成する学習スタイルです。「教師に教わる」のではなく「自ら学ぶ」ことを重点としており、学習に対して主体性が育まれることで、学習理解が進むということがねらいです。

「授業はわかりやすい」「授業では先生の説明や指示がはっきりしていてわかりやすい」の質問では90%を超える結果が出ていることは励みになります。引き続き、向上に努めます。

研究テーマに直結する項目「授業中ペアやグループで話し合う活動を行っている」「自分の考えを深めたり広げたりすることができる」でも、昨年度との比較で維持・向上が見受けられることから、本校がめざす授業づくりが、生徒に浸透してきていることがうかがえます。

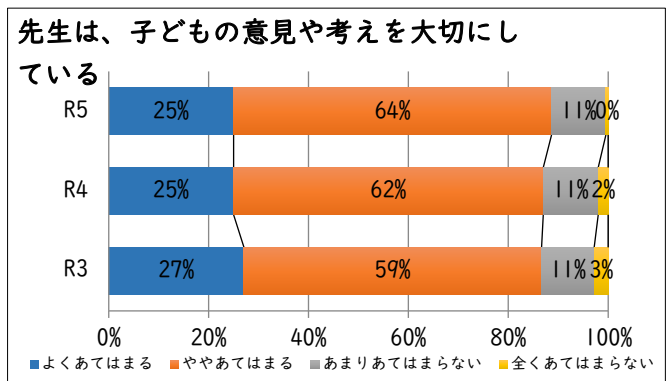
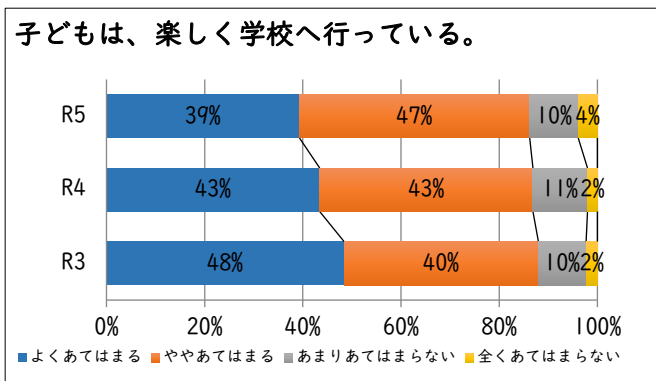


家庭学習の状況に関する項目(下段)について、「家で、自分で計画を立てて学習している」の質問では、肯定の回答が年々減少傾向にあります。併せて、「学校の勉強時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、学習をしているか」の質問において、若干の改善が見られるものの、約2割の生徒はほとんど家庭学習をしていない状況です。「めざす生徒像」から考えても、「自ら計画的に努力を積み立てていく」ことは必要だと考えています。家庭学習について、5分の1の生徒がほとんどしておらず、約5割の生徒が計画的に進めていない現状を大きな課題と捉えて、早急に改善を図っていきます。



(2) 保護者

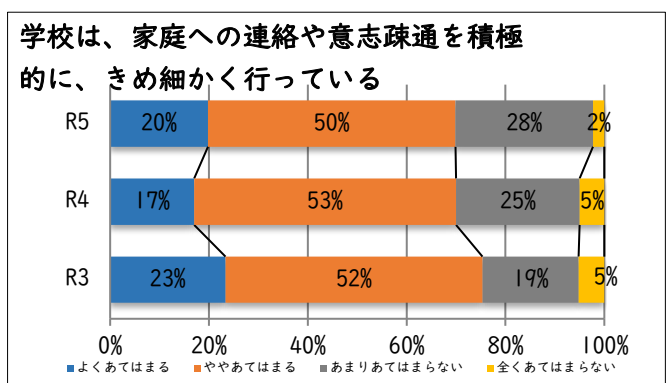
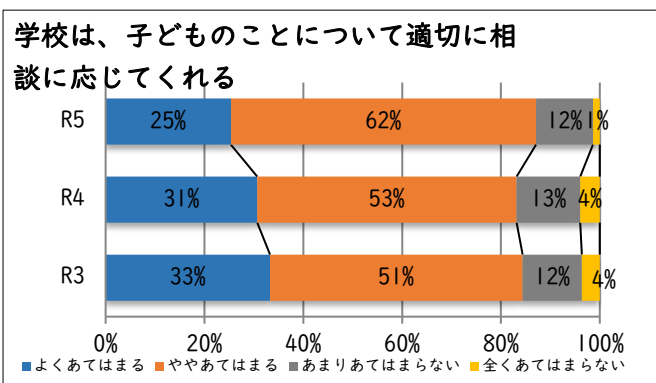
①子どもの様子・先生の様子



「子どもは、楽しく学校へ行っている」の回答では子どもたちの回答と同じ86%の肯定割合でした。ただし、「よくあてはまる」の強い肯定割合は、昨年度比-4ポイントです。

「先生は、子どもの意見や考えを大切にしている」の回答では、肯定回答の割合が、9割に迫ってきています。生徒対象の同項目でも良好な結果と言えるので、引き続き、子ども主体の学校づくりとその指導を継続していきます。

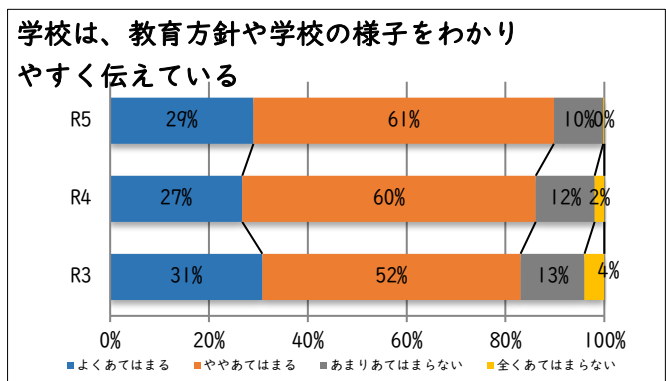
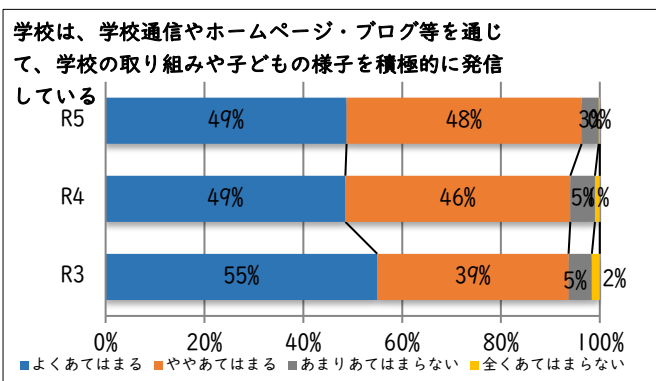
②保護者との連携



保護者からの相談受付状況について全体的には改善傾向ですが、強い肯定は下降しています。一方、学校からの連絡状況は、保護者からの相談状況と比較すると、開きがあります。学校からは、適宜連絡を差し上げていますが、それが「積極的」「きめ細かく」となると、改善の余地は多分にあるものと考えます。

近年、学校の勤務時間の適正化や保護者の方の就労状況等、連絡体制の構築が難しくなっていますが、子どもの最善の利益のためには学校と各ご家庭の協力は必須です。学校も改善に努めますので、ご理解ご協力をお願いします。

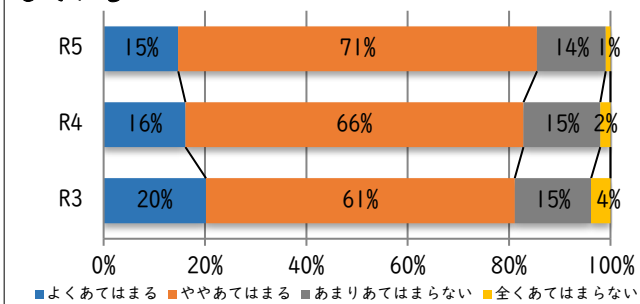
③情報発信について



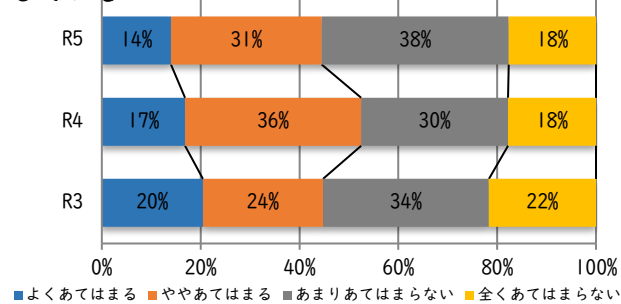
各種媒体での情報発信やその姿勢は、高く評価いただいています。引き続き、教育方針や学校の様子を、「わかりやすく」伝えることを意識して情報発信に努めてまいります。

④授業・家庭学習

先生は、わかりやすい授業づくりに努力している



子どもは家で、自分で計画を立てて勉強している



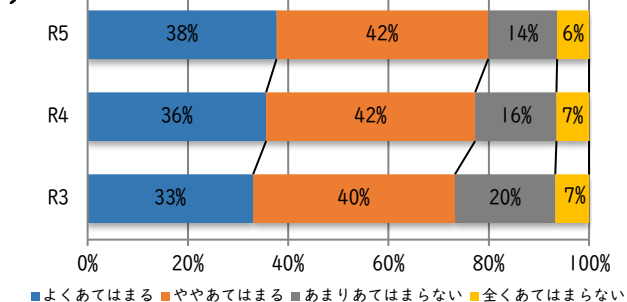
経年では、肯定的評価が上昇傾向です。生徒は授業が分かりやすいと9割が回答していることから、その実感を保護者の方にも評価いただいているものと分析します。生徒が「わかった」「できた」が、家庭で保護者と共有されることで、生徒の評価に近づいていくものと考えます。

一方、家庭学習については、この度の調査で生徒同様、最も課題が見受けられた項目となります。毎年課題と示しつつも、十分な方策がとられていないことを深く反省します。

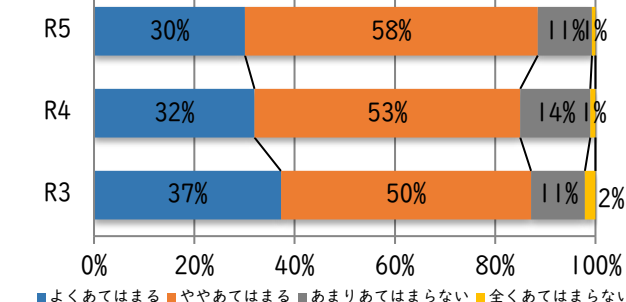
単に、宿題を増やすなどの表面的な取組ではなく、授業での学習と家庭での学習を往還するような課題設定や、自分で計画を立てて取り組む主体的な学習内容を提示していくことを進めます。

(3) 二者比較(「自己肯定感」について)

(生徒) 自分には良いところがあると思う



(保護者) 子どもは、自分に良いところがあると思っている。



「自己肯定感」に関する項目を二者(保護者と生徒)で比較してみると、肯定的数値で生徒は80%、保護者は88%と、生徒と保護者の認識に差があります。言い換えれば、保護者が思うほど、生徒自身は自己肯定感を高く感じていないということです。ここ数年では、生徒の数値は上昇傾向であり、好ましい状況になりつつあります。自己肯定感が高まると、感情が安定し物事を肯定的に捉え、何事にも意欲的になれるといわれていることから、生徒の自己肯定感はもっと高まってほしいものです。

そのためには、他者から自身の存在そのものを承認されたり、自身がその役割や責任を全うしたときに得られる有用感(役に立っているという実感)を感じたりすることが良いとされています。こういった観点でも、保護者の方と連携していきたいと考えています。

5. おわりに

生徒・保護者の調査より明らかになった教育活動の課題について真摯に受け止め、成果を得られた項目については継続して充実させることを、課題のある項目については研究や改善をすすめ、よりよい教育活動をめざします。この調査にご協力いただいた保護者の皆様、生徒の皆さんご協力ありがとうございました。今後ともご協力をお願いいたします。